



貴重書

墨川亭雪舟作

五百五十六

上

外題
墨川亭雪舟

特別
196

24
794



306531

墨川亭雪麻呂作

五月亭貞席画

千本櫻後日伏討

天保
申此
春
町親仁橋角
出来久堂持

名詮自性林亭主人の言葉の花は林を敏をたどりては
因りや據りけん千本櫻の戯曲と一目千本の一目子
ありみて堀りたりその種は雨露霜雪の他方を借ば已
趣向の肥し加え見事育と新工風の本木は勝る未木ありと
れは彦も濃ありと幽茶滅列衣の喝采たりとこれ見吉野の
山本主人は勝手の神と名思ふ櫻木はとく上木んとて春も
邊鄙の庵ふのさび守は宮の僕まで引出りは清水を
とく叙せよとてこののうら霞の向より熟視ふは終りく
んる外はふも管筆小咲せり花盛奥ある瀆の山口緒言
まづ麓路より歩行ありとあり

申初春

墨川亭雪麻呂序

大和国
吉野山之圖



在文晁之
名山圖普
因模寫之

ありの山
こゝの
あまの
入河人の
あまを
こひし
右 白拍子
静





●コレ
あひやあてうまらうの
うつてふあひるんどの
とれたのどけけして
まづりすくひくうら
まごのたのぶとあひひ

義経の立女 静御前

●コレ
あひやあてうまらうの
うつてふあひるんどの
とれたのどけけして
まづりすくひくうら
まごのたのぶとあひひ

●コレ
あひやあてうまらうの
うつてふあひるんどの
とれたのどけけして
まづりすくひくうら
まごのたのぶとあひひ



源九郎
源九郎
源九郎
源九郎

源九郎

●コレ
あひやあてうまらうの
うつてふあひるんどの
とれたのどけけして
まづりすくひくうら
まごのたのぶとあひひ

ひつりていひ
 りの山中
 けいんをかく
 まつりていひ
 なるをひく
 ぬんとまき
 よりの山の
 老翁とら
 うまらちの
 のをうらと
 ぼういしと
 とういしと
 かりめと
 けんとう
 かにと
 とまはる
 きたつと
 せんを
 つんが
 めつて
 をあそ
 ぐを
 ぐ



ありんかの
 ありてけを
 これも
 ふか
 けいん
 けいん

だんよ
 あり

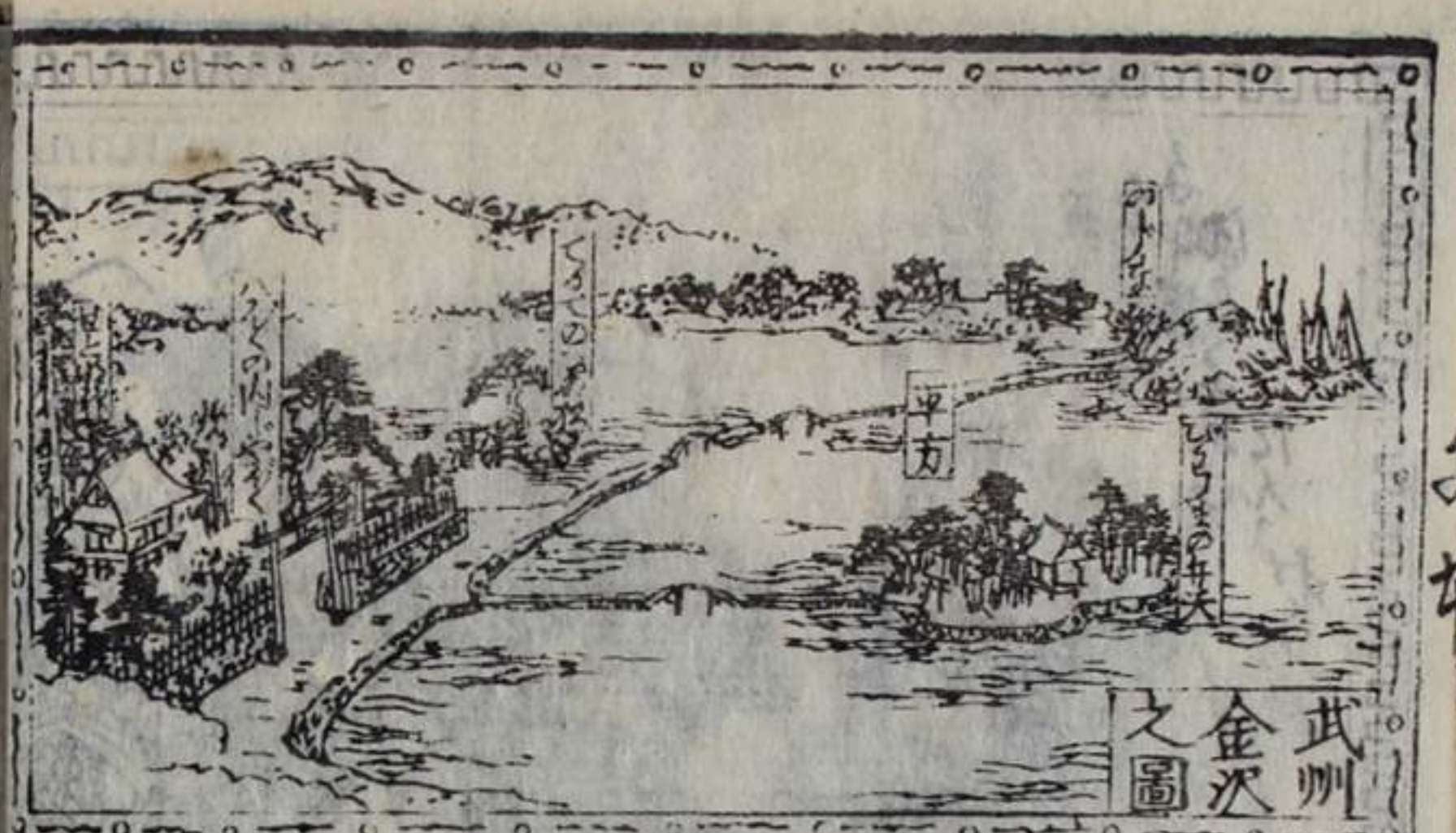
山科
 荒法橋

梅本
 鬼御坊

返坂
 某医坊



武州 金沢 之 圖
 此の図は、武州の金沢にありて、源氏の御殿に於ける所を写し置ける也。御殿の南には平三郎の墓あり、北には源氏の御殿あり、西には金沢の城あり、東には源氏の御殿あり。此の図は、武州の金沢にありて、源氏の御殿に於ける所を写し置ける也。御殿の南には平三郎の墓あり、北には源氏の御殿あり、西には金沢の城あり、東には源氏の御殿あり。



此双帝の義経十本櫻と云ふやうの戯場の
 作意とするは義経漂泊の事と専らつて
 するも知盛則経の事と夫のひて源氏を
 うらむといへどもつひは義経の事あり水ある
 ひに幾死と云ふんがごとくは世に知り
 ざざるのあり判官君臣の都をさりと陸
 奥よるよりそまよりの蝦夷へつくり義経
 大明神と稱する事ある事人の知ると
 ところまはげんをせむの事いとくをのち
 善と勸め悪と懲めおの足らぬとも千
 本櫻後日の仇討と名付く見女の心を
 慰んと云ふの事

作者 林亭 欽白

一〇
 武州 金沢 之 圖
 此の図は、武州の金沢にありて、源氏の御殿に於ける所を写し置ける也。御殿の南には平三郎の墓あり、北には源氏の御殿あり、西には金沢の城あり、東には源氏の御殿あり。此の図は、武州の金沢にありて、源氏の御殿に於ける所を写し置ける也。御殿の南には平三郎の墓あり、北には源氏の御殿あり、西には金沢の城あり、東には源氏の御殿あり。



柳亭種彦作 歌川國貞画 合巻標題

御詠染遠山鹿子 六編四冊

乙月の館の場より日田峠の大扇まで年々出版の續狂言
天保丙申春新彫乙未の辰相月より辰相遠賣出の中

時代違 風俗江湖傳 八冊

浄瑠璃合 浄瑠璃合 浄瑠璃合 浄瑠璃合 浄瑠璃合 浄瑠璃合 浄瑠璃合 浄瑠璃合 浄瑠璃合 浄瑠璃合

三扇古渡佐羅紗 全六冊 二編あり書切り

以上二種天保丁酉新彫申冬より發市

芳町川岸おやぢ橋角 栄久堂 山本屋平吉梓

分類

大正三年の... 堂 山本屋平吉

三編 古 武 全六冊

全六冊 二編 一冊

風谷 一冊

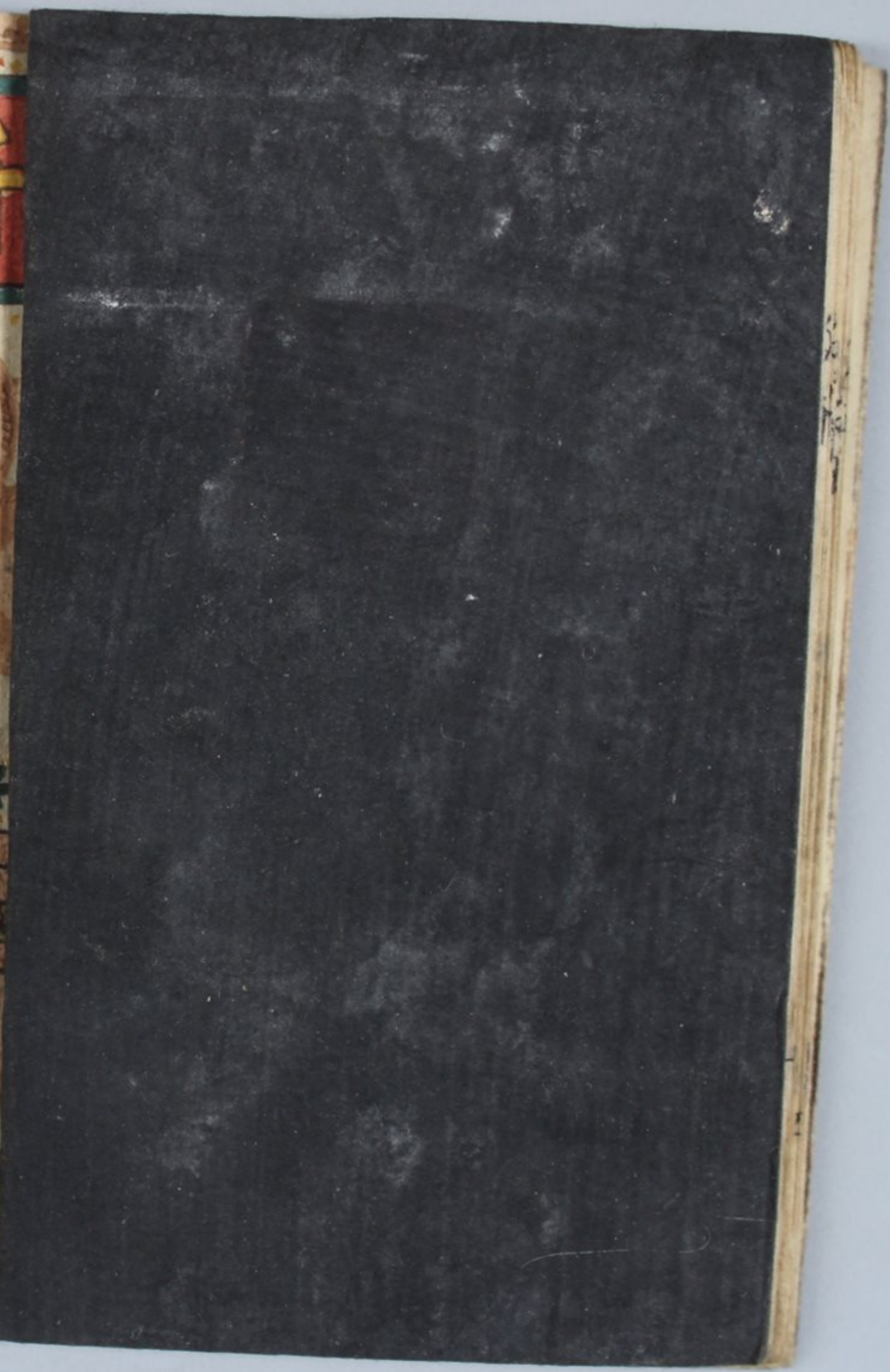
大正三年... 堂 山本屋平吉

千本櫻後日仇討



江戸川岸 山本版

下



ちぎんあのみたぬめい...
あはれなる...
ついでに...
母の...
甲の...
その...
の...
の母...
えいれい...



ちぎんあのみたぬめい...
あはれなる...
ついでに...
母の...
甲の...
その...
の...
の母...
えいれい...



ちぎんあのみたぬめい...
あはれなる...
ついでに...
母の...
甲の...
その...
の...
の母...
えいれい...

ちぎんあのみたぬめい...
あはれなる...
ついでに...
母の...
甲の...
その...
の...
の母...
えいれい...

つぎろろ母の
おはき

二三日
なにかん

一わ



山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

つぎろろ母の
おはき

つぎろろ母の
おはき

二三日
なにかん

一わ



つぎろろ母の
おはき

二三日
なにかん

一わ

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

つぎろろ母の
おはき

二三日
なにかん

一わ

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か

山み
か
山み
か
山み
か
山み
か



いふはつたてのこゝろに
あつてはつたてのこゝろに
あつてはつたてのこゝろに
あつてはつたてのこゝろに

山

山

あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに



あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに

あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに

あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに
あつたてのこゝろに





夫の死に
 恨み
 持ち
 世に
 名を
 残さ
 せむ
 故に
 今も
 大木
 下に
 立ち
 居り
 候

此の
 名は
 大木
 の
 下
 に
 あり



此の
 名は
 大木
 の
 下
 に
 あり

夫の死に
 恨み
 持ち
 世に
 名を
 残さ
 せむ
 故に
 今も
 大木
 下に
 立ち
 居り
 候

天保七申新春新刻目錄

<p>美艶仙春 坂本氏 黒油美春香</p>	<p>夜討曾我人形製 後編六冊 香蝶樓國貞画</p>	<p>菊壽童三編五 全六冊 香蝶樓國貞画</p>	<p>千本櫻後日仇討 全四冊 五風亭貞虎画</p>	<p>東海道五拾三驛 前編 後編</p>	<p>鶴屋南北作 每編四冊 歌川國芳画</p>
<p>父地本問屋榮久堂 錦繪</p>	<p>土筆長日樂書 全六冊 香蝶樓國貞画</p>	<p>浦墨姫操 優軍配 全六冊 白妙姫</p>	<p>安達原筆操 全十冊 香蝶樓國貞画</p>	<p>式亭小三馬作 式亭小三馬作</p>	<p>式亭小三馬作</p>

歌川貞虎画 林亭主人作



さるをなまきとてせんせいの
ちり小あつくんかあやしく
川文なるまきあて
やまぐりなをまき
さるのみる原なる
さるのみる原なる
さるのみる原なる
さるのみる原なる
さるのみる原なる
さるのみる原なる

江戸末の町三丁目
西の町
坂本氏製

天新子申春條候日録

里由美香
美體仙香
坂本氏

灸 龍齋 問屋榮久堂

山本平吉板

外信曾我人形製 後編六冊
香蝶樓國貞画

土筆尋日樂書 全六冊
香蝶樓國貞画

漢書董重三編 全六冊
白妙 浦墨
香蝶樓國貞画

安達原筆 全六冊
香蝶樓國貞画

千本對對日信 全四冊
五風亭貞虎画

安達原筆 全六冊
香蝶樓國貞画

東海道五拾三驛 前編 後編
鶴屋南北作
每編四冊
歌川國芳画

安達原筆 全六冊
香蝶樓國貞画

天保七申新春新刻日録

東海道五拾三驛 前編 後編
鶴屋南北作
每編四冊
歌川國芳画

千本櫻後日仇討 全四冊
五風亭貞虎画

安達原筆 全六冊
香蝶樓國貞画

菊壽童三編 全六冊
白妙 浦墨
香蝶樓國貞画

操競優軍配 全六冊
五雲亭貞秀画

夜討曾我人形製 後編六冊
三亭夫日馬作
香蝶樓國貞画

土筆長日樂書 全六冊
墨川亭雪磨作
香蝶樓國貞画

美體仙香
坂本氏
黒油美香

灸 地本 錦繪 問屋 榮久堂

山本平吉板

疑日候春申子孫天

果中表著
美體山著
Doca

炎
問星
榮入堂

山本平吉

文信曾
杏林對因貞画
三亭春

士筆
日樂書
全六冊

漢書
杏林對因貞画
全六冊

翰
軍
全六冊

十本
五風亭貞画
全四冊

安
香林對因貞画
全二冊

東
墨川亭聖
全一冊

每
墨川國
全一冊

国文
24L
43

文
圖書
年度

文
U
8